

# 株式会社ぐるなび

会社の興亡を握る膨大な量の顧客情報

セキュリティ対策選択の決め手は高度なセキュリティとユーザービリティ

インターネット上の膨大な数の会員制サイト。充実したサービスの提供やマーケティング、囲い込みなど、さまざまなメリットを会員制サイトは提供する。膨大な量の会員情報は、サイトを運営する会社の財産であると共に、その漏れはサイトはもちろん会社の存亡をも左右する大きな問題に発展する。その対策をいち早く打ったのが株式会社ぐるなびである。同社では、ワンタイムパスワード RSA SecurIDを導入、加えて RSA ClearTrustでシングルサインオンを可能にし、強固なセキュリティと使いやすさの両立を実現した。システムの必要性やソリューション選択のポイントを、同社 監査室 吉本 匡祐 氏にお伺いした。

## 株式会社ぐるなび

株式会社NKBの1事業部として1996年にオープンした日本最大級のグルメ情報サイト。2000年に株式会社ぐるなびとして発足。会員数は約312万人、掲載店舗数(加盟店)は4万3,000店舗に成長している(2005年2月)。「たびてネット」「SURF & SNOW」「えきから時刻表」も提供するなど、ビジネスを拡大させている。

<http://www.gnavi.co.jp/>



株式会社ぐるなび

### 食のトータルサイト「ぐるなび」 会員や加盟店情報の保護が課題となる

「ぐるなび」はグルメ情報サイトとして日本最大級であり、目的、エリア、駅名、予算等の条件からレストランを手軽に検索でき、お得なクーポン情報や最新レストラン情報などを入手できる。

クーポンやサイトの最新情報を得られる会員向けサービス「myぐるなび」、食に関するニュースが満載の「Moreぐるなび」、食材のショッピングサイト「ぐるなび食市場」など、多彩なサービスを提供。これら新サービスは加速的に追加され、サイトを充実させてきた。

さらに、現在では宿の予約や旅情報を検索する「たびてネット」、スキー情報の公式サイト「SURF & SNOW」、全国の路線検索や時刻表を提供する「えきから時刻表」も提供し、ビジネスを拡大させている。

1996年にサイトを立ち上げ、以降急速に成長。今では、会員数は約312万人、アクセス数は月間3億8千万ページビュー、掲載店舗数(加盟店)は

4万3,000店舗を誇っている(2005年2月16日現在)。ここで課題となったのが膨大な数の会員や加盟店の情報保護であった。

「会員情報はサイトを拡大するために不可欠な情報ですが、同時に漏れいのリスクも抱えることとなります。これが外部に漏れては、信頼性の低下や顧客離れなどから、サイトの運営継続が危うくなります。膨大な損害金額は、会社存亡の危機にもなります。サイトや会社を守るため、セキュリティ向上への取り組みが開始されました」と、セキュリティ強化の背景を株式会社ぐるなび 監査室 吉本 匡祐 氏は語る。

プライバシーマーク取得の検討を2003年10月に開始、「情報セキュリティ委員会」を設置した。社長を含めた参加メンバーは週に一度の定例会議が開かれるようになる。

プライバシーマーク取得の一環で、入退室管理をシステム化。次に課題となったのが、社内システムへの認証機能の強化であった。

RSA SecurID®  
RSA ClearTrust®



## セキュリティとユーザービリティを重視し RSA SecurIDとRSAClearTrustを採用

2004年4月から各社にセキュリティ対策の提案を依頼。「ここで、重視したのがセキュリティとユーザービリティの両立でした。極めてセキュアなポータルに一度ログインしたら、社内の情報に自在にアクセスできる環境を目指しました」と、当初の狙いを吉本氏は語る。

この条件をクリアしたのがRSAセキュリティのワンタイムパスワード RSA SecurIDとシングルサインオン RSA ClearTrustだった。パスワードを覚え、さらに定期的に変更することは、利用者にとって大きな負担となる。また、複数の社内システムへログインするために、複数のパスワードを利用するのも、業務の生産性を低下させる。

「ICカードと指紋認証も検討しましたが、ICカードは読み取り機が必要で、限られた机上を圧迫しますし、社員がICカードをなくす危険があります。指紋認証はレスポンスが遅いこともあるし、誤認証もあります。これでは利用者からクレームが来ます。RSA SecurIDなら、確実に受け入れられると確信し、即決しました」と、吉元氏はRSA SecurIDを認めます。

社内にはいろいろなシステムがあり、それぞれにパスワード入力が必要だった。せっかくワンタイムパスワードで入り口のセキュリティを高めているのだから、そのまま目的のシステムも使い、適切なアクセス制限もできたら理想的である。この発想でWebアクセス管理のRSA ClearTrustをシステムに取り込み、社員それぞれの仕事や権限にもとづき、アクセスできるように設定している。



株式会社ぐるなび 監査室  
吉本 匡祐 氏

## RSA SecurIDとRSA ClearTrust 導入のポイント

- ・ワンタイムパスワードによる強固な認証機能
- ・社員がパスワードを覚える必要がない
- ・訓練や講習会不要のスピーディな導入
- ・シングルサインオンでユーザービリティが向上



### RSAセキュリティ株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-3-1 東京銀行協会ビルディング  
エンタープライズ営業本部  
Tel.03-5222-5230  
<http://www.rsasecurity.co.jp>  
info-j@rsasecurity.com

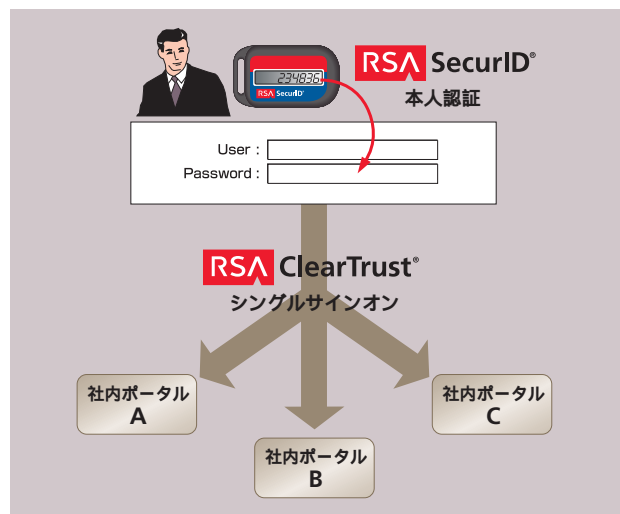
## RSA SecurIDを会員や加盟店に配付し サービスを拡大

8月にはシステム構築を開始。11月には本社の350クライアントを皮切りに関西営業所、そして7ヶ所の営業所で稼働している。導入にあたっては特別な訓練も講習会も開かなかった。

「メール等で告知をした程度です。運用開始当日は全社員の机上にマニュアルを配るなど、万全の手配を実施しました。9時以降から入社した社員が順次設定を開始し、ログイン操作に入る。それを眺めていたのですが、驚くほど問題がありませんでした。ほとんどトラブルもなく11時には平常どおりの運用に入ることができました。100点満点の導入成績でした」と、吉本氏は振り返る。

RSA SecurIDを会員や加盟店に配付しサービスを充実する構想もある。ぐるなびでは加盟店がサイト上で独自に顧客データベースを持ち、さまざまなプロモーションに使用している。加盟店にも個人情報漏えいの危険性があるわけだ。「会員にもRSA SecurIDを持っていただくことで、私たちは安心してさまざまなサービスを提供できるようになります。サービスの充実とセキュリティを提供できるようになります」と、吉本氏は今後の展開を語る。

ぐるなびは常に斬新な着眼点を持ち、新たな市場を切り拓いてきた。そのインターネットのパイオニアが、次の飛躍に挑戦しようとしている。その挑戦を、RSA SecurIDとRSA ClearTrustが強力に支援している。



販売代理店

RSA SecurIDおよびRSA ClearTrustは、米国およびその他の国におけるRSA Security Inc.の登録商標です。本文中に記載されている製品名およびサービス名は、各社の商標あるいは登録商標です。